

サム・アルトマン「2028年に超知能到来」

India AI Impact Summit 2026 講演の全貌と波紋

調査レポート

Claude Opus 4.6

2026年2月22日

エグゼクティブサマリー

サム・アルトマンは2026年2月19日、ニューデリーで開催された India AI Impact Summit 2026 の基調講演で、「2028年末までにデータセンター内の知的能力が人類全体の知的能力を超える」と宣言した^{[1][2]}。この予測は、AI業界における最も大胆なタイムライン提示の一つであり、IAEA型の国際AI監視機関の設立提唱とあわせて、サミット最大の話題となった^[3]。一方で、MetaのヤンルカンやGoogle DeepMindのデミス・ハサビスは明確に異論を唱え^{[4][5]}、メディアや研究者からは「誇大宣伝」との批判も噴出している^[6]。本レポートでは講演の詳細内容、OpenAIのインド展開戦略、業界リーダーの対照的見解、批判の論点、および日本への政策的含意を包括的に整理する。

1. 「知的逆転」——超知能到達の具体的予測

講演の中核をなしたのは、超知能 (superintelligence) の到来時期に関する具体的な予測である。アルトマンは「現在の軌道上では、真の超知能の初期版からわずか数年の距離にいると考えている。我々が正しければ、2028年末までに、世界の知的能力の大半がデータセンターの内部に存在するようになる」と述べた^{[1][2]}。

この「知的逆転」 (intellectual inversion) とは、AIの処理能力と問題解決能力が人類全体のそれを凌駕する転換点を指す。アルトマンは「超知能は、いずれかの発展段階で、大企業のCEO

として私よりもはるかに優れた判断を下し、最高の科学者よりも優れた研究を行うことが可能になる」と具体例を挙げた^[7]。高校数学レベルで苦戦していた AI が、現在は研究レベルの数学を解き理論物理学で新規成果を出せるようになったことを進歩の証拠として提示し、「間違っている可能性もあるが、真剣な検討に値する」と付け加えた^[8]。

日本のビジネス+IT (sbbbit.jp) はこの変革を「不可逆的」と表現し、「人間が GPU の労働力に勝つことは非常に難しくなる」というアルトマンの発言を強調した^[9]。Asset Alive は投資の観点から、超知能の閾値を超えた場合に「指数関数的な自己強化型成長」が起こる可能性を指摘し、GPU 半導体、光通信、データセンター投資、電力インフラを注目テーマとして挙げている^[10]。

2. AI 民主化の 3 原則と全体主義への明確な警告

アルトマンは超知能の到来を前提に、AI の未来を左右する 3 つの核心的信念を提示した^[11]。

2.1 第 1 原則：AI 民主化こそが唯一の公正で安全な道

「この技術の一つの企業や一つの国家に集中させることは破滅につながる」と明言し、「人々に力を与えるか、権力を集中させるか、我々は選択しなければならない」と述べた^[11]。

2.2 第 2 原則：AI レジリエンスは安全保障の核心戦略

「一つの AI 研究所だけで良い未来を実現することはできない」と指摘。オープンソースの生物学モデルが病原体生成に悪用されるリスクにも言及し、社会全体での防御アプローチを求めた^{[7][8]}。

2.3 第 3 原則：AI の未来は誰の予測通りにも展開しない

多くの人々はその形成に関与すべきだとし、多様なステークホルダーの参画を呼びかけた^[8]。

2.4 全体主義リスクへの踏み込んだ発言

「癌の治療と引き換えに実効的な全体主義 (effective totalitarianism) を受け入れたいと考える

人もいる。だが、そのトレードオフを受け入れるべきではない」と発言。望ましい未来は「自由、民主主義、そして人間の主体性の拡大を備えたもの」であるべきだと強調した^{[11][12]}。AIが独裁者や全体主義国家と「整合」した場合の対処、AIによる新たな戦争形態、社会契約の再定義など、「我々がまだ答えを持っていない」問題群を率直に列挙した^[7]。

3. IAEA 型 AI 国際監視機関の設立提唱

具体的な政策提言として最も注目を集めたのは、国際原子力機関（IAEA）に類似した AI 国際監視機関の設立提唱である。「AI の国際的調整のために IAEA のような組織が必要になると予想している。とりわけ、変化する状況に迅速に対応する能力を持つことが重要だ」と述べた^{[3][13]}。国家単位の規制ではもはや不十分であり、基準の統一、リスクの監視、緊急事態への迅速な対応を担う国際機関が必要だとの主張である。

この提案に対しては学术界から複数の批判が提起されている。arXiv に掲載された論文は、IAEA 自体が抱える執行力の弱さや二重使命の緊張関係を AI 機関が引き継ぐリスクを指摘^[14]。核物質は物理的に検査・封じ込め可能だが AI はソフトウェアベースで容易に複製・分散されるため、核と AI のアナロジーには本質的な限界があると論じた。innovatopia.jp の日本語分析も「核エネルギーと AI の比較は適切か」と読者に問いかけている^[3]。

米国代表団の姿勢も注目された。ホワイトハウスのマイケル・クラツィオスは「米国は、パートナー国を真に力づけることを望み、それが可能な唯一の AI 超大国だ」と発言した^[15]。

4. OpenAI のインド展開とタタ・グループとの大型提携

2023 年 6 月の訪印時に「基盤モデルで我々と競争するのは完全に望みがない（totally hopeless）」と発言し批判を受けたアルトマンは、今回「インドは AI の消費者ではなく、効率的で拡張可能なイノベーションが巨大テック企業の力業を打ち破れることを証明する実験場だ」と 180 度転換した態度を示した^{[16][17]}。

4.1 タタ・グループとの戦略的パートナーシップ

産業特化型「エージェント型 AI」ソリューションの共同開発、Stargate 構想の一環としてのデータセンター建設（初期 100 メガワット、最大 1 ギガワットに拡張可能）が発表された。TCS は数十万人の従業員に ChatGPT Enterprise を導入し、世界最大級の企業向け AI 展開の一つとなる^{[18][19]}。

4.2 オフィス開設と教育分野の展開

OpenAI は 2026 年中にベンガルール・ムンバイに新オフィスを開設し、インド拠点を 3 カ所に拡大する^[19]。教育分野では、IIT デリー、IIM アーメダバード、AIIMS など 6 機関と提携し、10 万人以上の学生・教職員に ChatGPT Edu を提供する^[20]。インドではすでに毎週 1 億人以上が ChatGPT を利用しており、コーディングエージェント Codex の最も急成長している市場もインドだとアルトマンは明かした^[18]。

5. テック業界リーダーたちの対照的な見解

5.1 デミス・ハサビス（Google DeepMind CEO）

超知能には言及せず、AGI（汎用人工知能）が 5～8 年以内に到来する可能性を語った。現在の AI を「ジャグド・インテリジェンス（凸凹な知能）」と表現し、数学オリンピックで金メダル級の成績を出す一方、言い回しを変えた初等算術で失敗する不整合性を指摘^{[5][21]}。AGI の実現には「継続的学習」「長期的計画」「真の創造性」の 3 つの根本的課題が残ると述べ、テストとして「1911 年時点の知識で訓練した AI が 1915 年までに独力で一般相対性理論を導出できるか」を提案した^[22]。

5.2 ヤンルカン（Meta チーフ AI サイエンティスト）

「我々はまだそこからは遠い。2 年以内に超知能システムが実現するなどということはない。起こりえない」と断言^[4]。「LLM は根本的に能力に限界がある。LLM が超知能につながるといふ言説全体が間違いだ」とし、業界が「完全に LLM に取り憑かれている」と批判した^[23]。

5.3 ダリオ・アモデイ（Anthropic CEO）

独自の角度からアプローチし、AI がインドに 20~25% の GDP 成長をもたらす可能性があるという大胆な予測を示した。一方で、「エントリーレベルのホワイトカラー職の相当割合が 5 年以内に自動化される可能性がある」とリスクも警告した^[24]。

5.4 象徴的エピソード

モディ首相を中心とした集合写真で、アルトマンとアモデイは隣り合いながら手をつなぐことを拒否し、代わりに拳を掲げた。あるスタートアップ創業者は X 上で「AGI はいつ来るか？ダリオとサムが手をつなぐ日だ」と投稿して話題となった^[25]。

6. 批判と懐疑——「誇大宣伝の 10 年」

6.1 構造的批判：ビジネスピッチとしての超知能予測

Medium 誌の分析記事は「科学的厳密さの観点から言えば、生成 AI 上に超知能を構築することは不可能だ」と切り捨て、米国の投資家が AI ハイブに疲弊する中でインドが「起死回生のカード」にされていると指摘した^[26]。「超知能は不可避→それを構築するにはデータセンターと適切な技術が必要→その技術は OpenAI のもの」という論理構造がビジネスピッチに他ならないとの分析である。

MIT Technology Review 日本版は、アルトマンが 10 年以上にわたり「未解決の問題にすでに答えがあるかのように語ってきた」と追跡し、AI を資金調達のために必要に応じて「救済」と「破滅」の間で使い分けるコミュニケーション戦略を分析した^[6]。

6.2 サミット運営と市民社会への批判

CNBC の現地レポーターは「混乱と 2000 億ドルの夢」と報じ、運営の混乱、VIP 車列のための道路封鎖、ホームレスの強制排除、中国製ロボット犬を国産と偽ったガルゴティアス大学のスキャンダルなど、サミット自体の問題点を詳述した^[27]。CSO Hate の政策報告書は、「インドの公式な AI 言説と、少数派コミュニティを標的とした AI 利用による監視・抑圧の現実との間の明白な断絶」を指摘した^[28]。

7. 日本メディアの独自視点と政策的含意

日本メディアは英語圏とは異なる視点で講演を分析した。innovatopia.jp は、アルトマンの発言に「戦略的二面性」——規制を求めながら同時に急速な技術進歩を喧伝する——を読み取り、これが資金調達や市場利益に奉仕している可能性を指摘した^[3]。

日本の政策文脈も重要である。サミットの2カ月前の2025年12月、日本政府は初の「AI基本計画」を閣議決定し、「世界で最もAI開発・利用しやすい国」を目標に掲げた^[29]。しかし、日本のアプローチはアルトマンの提案するIAEA型の硬い国際規制とは一線を画し、非拘束的でアジャイルなガバナンス——「目標ベースアプローチ」と「リスクベースアプローチ」——を志向している。2026年2月12日のAI・半導体作業部会では、日本のAI活用率が19.1%（世界53位）にとどまる現状が議論されている^[30]。

Note.comに掲載されたある工場労働者のエッセイは草の根レベルの受容を象徴する。「2028年。あと2年……データセンターの中の知性が人間の頭の中のそれを上回るという表現は生々しく、少し背筋が寒くなった」と綴り、卵の値段を話す工場の休憩室と超知能到来という二つの現実の断絶を描き出している^[31]。

結論——予測か、セールスピッチか

アルトマンの講演が投げかけた問いは、超知能の到来が2028年なのか2035年なのかという時期の問題にとどまらない。AIの未来をめぐる三つの根本的な対立——LLMの延長線上に超知能は存在するか（アルトマン対ルカン）、国際規制は技術の性質上機能しうるか（IAEA型提案対学術的批判）、そしてテック企業CEOの予測は科学的見通しなのかビジネス戦略なのか——が、このサミットで同時に可視化された。

ハサビスの「凸凹な知能」概念が示すように、AIは特定タスクで人間を凌駕しつつも一貫性と堅牢性に深刻な課題を残している^[5]。ルカンが指摘する通り、LLMには世界モデルの構築能力が欠けている^[4]。しかし同時に、AIの能力向上速度がこれらの批判を無効化する可能性も否定できない。アルトマン自身が「間違っている可能性もある」と認めたように、不確実性こそが

現在の AI 言説の本質であり、だからこそ多様なステークホルダーの関与が不可欠である。日本にとっては、インドが AI インフラのハブとして急浮上する中で、アジアにおける AI 開発の重心移動にどう対応するかが喫緊の戦略課題となっている。

参考文献

- [1] Outlook India, "AI Impact Summit 2026: Altman Calls For Global AI Regulator, Says Superintelligence Could Arrive Within Years," Outlook India, 2026 年 2 月 19 日.
<https://www.outlookindia.com/national/ai-impact-summit-2026-altman-calls-for-global-ai-regulator-says-superintelligence-could-arrive-within-years>
- [2] DATAQUEST, "Sam Altman says early superintelligence could arrive by 2028," DATAQUEST, 2026 年 2 月 19 日. <https://www.dqindia.com/news/sam-altman-superintelligence-2028-ai-india-impact-summit-11133968>
- [3] innovaTopia, "サム・アルトマン、AI 規制の国際機関設立を提唱 — インド AI サミットで「IAEA 型」の枠組み求める," innovaTopia, 2026 年 2 月 19 日. <https://innovatopia.jp/tech-social/tech-social-news/81002/>
- [4] MEDIANAMA, "Sam Altman Predicts Superintelligence in Just a Few Years," MEDIANAMA, 2026 年 2 月 21 日. <https://www.medianama.com/2026/02/223-superintelligence-within-years-sam-altman-meta-ai-scientist-disagrees/>
- [5] News9live, "India AI Impact Summit 2026: DeepMind CEO Demis Hassabis says current AI still 'Jagged' and learning," News9live, 2026 年 2 月 19 日. <https://www.news9live.com/technology/artificial-intelligence/india-ai-summit-2026-deepmind-hassabis-ai-jagged-learning-2932470>
- [6] MIT Technology Review 日本版, "AI ブームを作ったサム・アルトマン『誇大宣伝』10 年の発言録," MIT Technology Review, 2025 年 12 月. <https://www.technologyreview.jp/s/374037/a-brief-history-of-sam-altmans-hype/>
- [7] TechStory, "Insights from Sam Altman at the AI Impact Summit 2026," TechStory, 2026 年 2 月 19 日. <https://techstory.in/the-global-governance-of-agi-and-the-tipping-point-of-superintelligence-insights-from-sam-altman-at-the-ai-impact-summit-2026/>
- [8] CIOL, "Altman says early superintelligence could arrive by 2028," CIOL, 2026 年 2 月 20 日. <https://www.ciol.com/news/sam-altman-says-early-superintelligence-could-arrive-by-2028-11135224>
- [9] ビジネス+IT / Yahoo!ニュース, "OpenAI のサム・アルトマン CEO 「2028 年までに AI が人類の知能を超える超知性に到達」," Yahoo!ニュース, 2026 年 2 月 20 日. <https://news.yahoo.co.jp/articles/b7a98232dacfd61f59ac2de1bdf0258be72528fe>
- [10] Asset Alive, "サム・アルトマン氏「2 年で超知能初期版」 「2028 年末までに知能の中心はデータセンターへ」," Asset Alive, 2026 年 2 月. <https://www.asset-alive.com/news/?mode=show&seq=56422>
- [11] Storyboard18, "OpenAI's Sam Altman says 'Centralization of AI in one company or country could lead to ruin' at Delhi summit," Storyboard18, 2026 年 2 月 19 日. <https://www.storyboard18.com/brand-makers/openais-sam-altman-says-centralization-of-ai-in-one-company-or-country-could-lead-to-ruin-at-delhi->

[summit-90100.htm](#)

- [12] Kashmir Reader, *"India's leadership, AI regulation, super intelligence and the future: What Sam Altman said at AI Summit,"* Kashmir Reader, 2026 年 2 月 20 日.
<https://kashmirreader.com/2026/02/20/indias-leadership-ai-regulation-super-intelligence-and-the-future-what-sam-altman-said-at-ai-summit/>
- [13] Digit, *"India AI Impact Summit 2026: OpenAI CEO Sam Altman calls for urgent AI regulations as superintelligence nears,"* Digit, 2026 年 2 月 19 日. <https://www.digit.in/news/general/india-ai-impact-summit-2026-openai-ceo-sam-altman-calls-for-global-ai-watchdog-as-superintelligence-nears.html>
- [14] arXiv, *"An Institutional Analysis of the IAEA and IPCC (AI governance analogy study),"* arXiv, 2024 年 9 月. <https://www.arxiv.org/pdf/2409.10536>
- [15] BigGo ファイナンス, *"AI 覇権争い、新興国へ拡大…インド首脳会議で「包括的 AI」への責任論が浮上,"* BigGo, 2026 年 2 月. <https://finance.biggo.jp/news/PIQzeZwB5edQG9E4Fzgu>
- [16] Business Today, *"India well positioned to lead and shape AI, says Sam Altman, a sharp turn from his 2023 'hopeless' remark,"* Business Today, 2026 年 2 月 19 日.
<https://www.businesstoday.in/technology/news/story/india-well-positioned-to-lead-in-ai-not-just-build-it-but-shape-it-sam-altman-a-sharp-turn-from-his-2023-hopeless-remark-516988-2026-02-19>
- [17] Mudit Singhal, *"From 'Hopeless' to Hub: Sam Altman's Epic U-Turn on India's AI Potential,"* Medium, 2026 年 2 月. <https://medium.com/@muditsinghal2250/from-hopeless-to-hub-sam-altmans-epic-u-turn-on-india-s-ai-potential-d0d38cb0aa59>
- [18] OpenAI, *"Introducing OpenAI for India,"* OpenAI 公式ブログ, 2026 年 2 月 19 日.
<https://openai.com/index/openai-for-india/>
- [19] My Mobile India, *"OpenAI to Open Mumbai and Bengaluru Offices, Partner With Tata Group for AI Data Centre in India,"* My Mobile India, 2026 年 2 月 19 日. <https://www.mymobileindia.com/openai-to-open-mumbai-and-bengaluru-offices-partner-with-tata-group-for-ai-data-centre-in-india/amp/>
- [20] Analytics India Magazine, *"OpenAI Partners With IIT Delhi, AIIMS, IIM-A and Others to Push AI to Academia,"* Analytics India Magazine, 2026 年 2 月 19 日. <https://analyticsindiamag.com/ai-news/openai-partners-with-iit-delhi-aiims-iim-a-and-others-to-push-ai-to-academia>
- [21] Upstox, *"Why today's AI falls short of true general intelligence: Google DeepMind CEO explains 'frozen model' limits,"* Upstox, 2026 年 2 月. <https://upstox.com/news/business-news/latest-updates/why-today-s-ai-falls-short-of-true-general-intelligence-google-deep-mind-ceo-explains-frozen-model-limits/article-189603/>
- [22] The Singju Post, *"Demis Hassabis On AGI, Advice For Indian Engineers, AI In Gaming & More (Transcript),"* The Singju Post, 2026 年 2 月. <https://singjupost.com/demis-hassabis-on-agi-advice-for-indian-engineers-ai-in-gaming-more-transcript/>

- [23] ThePrint, "Yann LeCun isn't worried about LLMs gaining superintelligence," ThePrint, 2026 年 2 月. <https://theprint.in/india/yann-lecun-llms-superintelligence-synapse-india-conclave/2860193/>
- [24] Business Today, "India AI Impact Summit 2026: Anthropic CEO Dario Amodei predicts India's 25% growth with AI," Business Today, 2026 年 2 月 19 日. <https://www.businesstoday.in/tech-today/news/story/india-ai-impact-summit-2026-anthropic-ceo-dario-amodei-predicts-indias-25-growth-with-ai-516958-2026-02-19>
- [25] CNBC, "Sam Altman and Dario Amodei avoid holding hands at India AI summit," CNBC, 2026 年 2 月 19 日. <https://www.cnbc.com/2026/02/19/openai-sam-altman-anthropic-dario-amodei-india-ai-summit.html>
- [26] Alberto Romero, "Sam Altman Promised Superintelligence Again. This Time — to the Whole World. Guess Why," Medium (Predict), 2026 年 2 月. <https://medium.com/predict/sam-altman-promised-superintelligence-again-this-time-to-the-whole-world-guess-why-5ebef857817a>
- [27] CNBC, "Chaos, confusion and \$200 billion dreams: What I saw at India's AI summit," CNBC, 2026 年 2 月 21 日. <https://www.cnbc.com/2026/02/21/ai-summit-india-tech.html>
- [28] CSO Hate, "AI Impact Summit 2026: AI Governance at the Edge of Democratic Backsliding," CSO Hate, 2026 年 2 月 11 日. <https://www.csohate.org/2026/02/11/ai-impact-summit-2026/>
- [29] SBbit, "日本政府、「AI 基本計画」を閣議決定「信頼できる AI」で日本の AI 再起を目指す," ビジネス+IT, 2025 年 12 月. <https://www.sbbbit.jp/article/cont1/177617>
- [30] 経済産業省, "第 1 回 AI・半導体 WG 事務局説明資料 2026 年 2 月 12 日," 経済産業省, 2026 年 2 月 12 日. https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/seichosenryakuwg/aisemicon01/shiryo04.pdf
- [31] Yutokure, "来週の「棚卸し」が消滅する日。工場で働きながら見つめる、2028 年「超知能(ASI)」到来のリアル," Note.com, 2026 年 2 月. https://note.com/yuto_kure/n/nb24b74bdebc8